



はじめに

「聖人のみもとに帰ろう」の基本理念のもとに進めて参りました聖人御遷化後七百五十年目の御遠忌法会をいよいよお迎えすることとなりました。

この法会に、野州の本寺より“等身の御影”が八十年ぶりに御下向されますが、今こそ生身の親鸞さまに会い奉らねばなりません。

思えば昨年の大災害は、今親鸞さまにお会いせずしてこの国の救いはないと天啓であったかと思ぜられます。わが身と一体となって下さる弥陀の大悲を、親鸞さまの直説によつて体感させていただきましよう。

この念願のもとに、二つのシンポジウムを柱とし、数々の行事が企画されました。どうかこの各々の行事に一つでも多く参加していただいて、積極的に発言して下さいよう願っております。同時に晨朝・逮夜の勤行にも共に唱和して、十方に響流する念佛の大コーラスが現出しますよう欣求して止みません。

終りにこの大法会の円成に向けて、心魂を傾けてこられた事務局をはじめ僧俗一切の方々に深く感謝すると共に、「お参りしてよかった」との感動が末長く教団の力となって、広く社会に働き続けますよう切に希求いたします。

平成二十四年四月

第二十四世法主 常磐井 鸞猷